



Venture Pulse

Q2 2024

Global analysis of venture funding
日本語抄訳版

2024年9月



要旨

グローバル

- ベンチャーキャピタルによる投資は、943億ドルに回復する一方で取引件数は減少
- 全案件に占めるダウンラウンドとフラットラウンドの割合が2割以上に
- AIとヘルステック分野が投資家の絶大な注目を集める
- イグジットは引き続き鈍化
- ベンチャー企業の資金調達は前年比で横ばい
- 世界の上位取引10件のうち6件は、米国企業に対し実施



米国

- ベンチャーキャピタルによる投資は、556億ドル（取引数：3,108件）に急増
- 取引規模の中央値はすべてのステージで上昇
- 全案件に占めるシリーズBとシリーズC案件の割合が増加
- バイオテクノロジー分野への投資は堅調
- IPOは回復基調

南北アメリカ

- ベンチャーキャピタル支援企業による投資は、583億ドル（取引数：3,472件）に
- バイオテクノロジーとAIを含む企業向けソフトウェア・アプリケーション分野への投資は活況
- カナダにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、13億ドルに回復
- ブラジルにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、メガディールにより好調な四半期を記録
- 米国が6件の10億ドル規模の案件を含め同地域における投資を牽引



アジア

- ベンチャーキャピタルによる投資は、174億ドル（取引数：2,155件）に減少
- 取引規模の中央値は、シリーズD+の案件で低下
- シードとシリーズAの案件への投資は引き続き好調
- インドでのベンチャーキャピタルによる投資は、2四半期連続で増加
- 中国でのベンチャーキャピタルによる投資は、過去最低水準に
- 日本でのベンチャーキャピタルによる投資は、引き続き底堅い

欧州

- 投資熱の高まりを受け、ベンチャーキャピタルによる投資は178億ドル（取引数：1,869件）に上昇
- 全案件に占めるシリーズB以降の案件が増加
- 企業向けソフトウェア分野への投資が引き続き投資を牽引
- 英国におけるベンチャーキャピタルによる投資は、複数のメガディールにより回復
- 上位取引10件のうち5件は英国、3件はドイツで実施

グローバルー2024年第2四半期 (1/3)

2024年第2四半期のベンチャーキャピタルによる投資は、南北アメリカ地域が米国の556億ドルを含め583億ドル、欧州が178億ドル、アジアが174億ドルとなり、取引総額は5四半期ぶりの高水準となる943億ドルを記録しました。一方、取引件数は、特に欧州とアジア地域で低調に推移しました。

10億ドル以上の取引がすべての地域で成立し、取引総額の増加に寄与

2024年第2四半期に10億ドル以上の資金を獲得した企業は、世界全体で前四半期の2倍以上の10社近くに上り、10億ドル以上のメガディールが記録された四半期としては2番目に多い数になりました。地域別では南北アメリカが最も多く、米国のCoreWeaveによる86億ドルをはじめ、xAI（60億ドル）、Juul（12億ドル）、Scale AI（10億ドル）、Wiz（10億ドル）、Xaira Therapeutics（10億ドル）と、すべて米国を拠点とする企業によるものでした。アジア太平洋地域では、シンガポールのLazadaによる19億6,000万ドルとインドのFlipkartによる10億ドルという2つのeコマース企業による資金調達が行われ、欧州では、英国のWayveが10億ドルを調達しました。また、英国ではAboundも当四半期中に9億9,960万ドルを調達しました。

AIは引き続きベンチャーキャピタルによる投資を後押し

人工知能（AI）は、2024年第2四半期も世界的に投資家にとって最も魅力的な技術分野でした。大規模言語モデル（LLM）やAIモデルの開発・提供には莫大なコストがかかることもあり、米国のCoreWeaveやxAI、フランスのMistral AI、ドイツのDeepLなど、AIを手がけるスタートアップは多額の資金を調達しました。また、世界的な大手ハイテク企業は、当四半期も引き続きこの分野に多くの資金を投入しました。

AIをめぐる規制環境は、今後数四半期にわたって注視していく必要があります。EU理事会は2024年第2四半期、AIの使用に関連する世界初の規制となるAI法を承認しています¹。

1. <https://www.consilium.europa.eu/en/press/press-releases/2024/05/21/artificial-intelligence-ai-act-council-gives-final-green-light-to-the-first-worldwide-rules-on-ai/pdf/>

依然停滞が続くIPO市場は、2024年第3四半期に向け明るい兆しも

IPO市場は、いくつかの明るい兆しはあったものの、世界的に軟調に推移しました。米国では2024年4月に2件の堅実なIPOがあり、サイバーセキュリティ企業のRubrikが7億5,200万ドル、テクノロジーマーケティング企業のIbottaが5億7,700万ドルを調達しました。また、英国では、格安コンピューターのRaspberry Piが2024年6月に実施したIPOで2億1,100万ドルを調達し、2024年の英国での2番目に大きなIPOとなりました。この3社のIPOはいずれもポジティブなものであり、2024年第3四半期に向けてさらに多くの企業が続く可能性があります。しかし、今年の11月には米国大統領選挙が行われるため、IPO市場が完全に回復するのは2025年になると予想されます。

防衛テックへの関心が世界的に高まる

ここ数四半期、世界の投資家は防衛テック分野への関心を高めています。米国では、多くの防衛テック企業が、既存の防衛産業の企業と競争できる規模にまで成長してきています。また、オーストラリア、インド、英国など、世界の他の地域でも小規模ながら防衛テック企業が現れています。この分野ではまだ大規模な統合は行われていませんが、今後1、2年のうちに株式公開に踏み切る防衛テック領域のスタートアップが増える一方で、規模の小さい防衛テック企業が大手による買収のターゲットになる可能性があります。

グローバルー2024年第2四半期 (2/3)

サイバーセキュリティへの注目が高まると予想される

AIは今後数年間、世界中の企業に大きなビジネスチャンスをもたらすと期待されていますが、同時に経営上のリスク、特にサイバーセキュリティに関するリスクを生み出し、増大させる可能性が高いと考えられます。AIが身近に使われるようになることで、悪意のある攻撃者はサイバー攻撃を行う上でこれまで以上に有利な立場に立つこととなります。企業が自社の組織、顧客、データを保護しようとするなかで、AIサイバーリスクへの対応や管理をより効果的にするサイバーセキュリティ分野のスタートアップへの投資がますます増加すると予想されます。さらに、欧州のデジタルオペレーショナルレジリエンス法（Digital Operations Resilience Act）など、さまざまな国・地域のデータ保護やサイバーレジリエンスに関連した法規制も、企業がコンプライアンス義務をより適切に管理する方法を模索するなかで、この分野への投資を促進する可能性があります。

2024年第3四半期に注目すべきトレンド

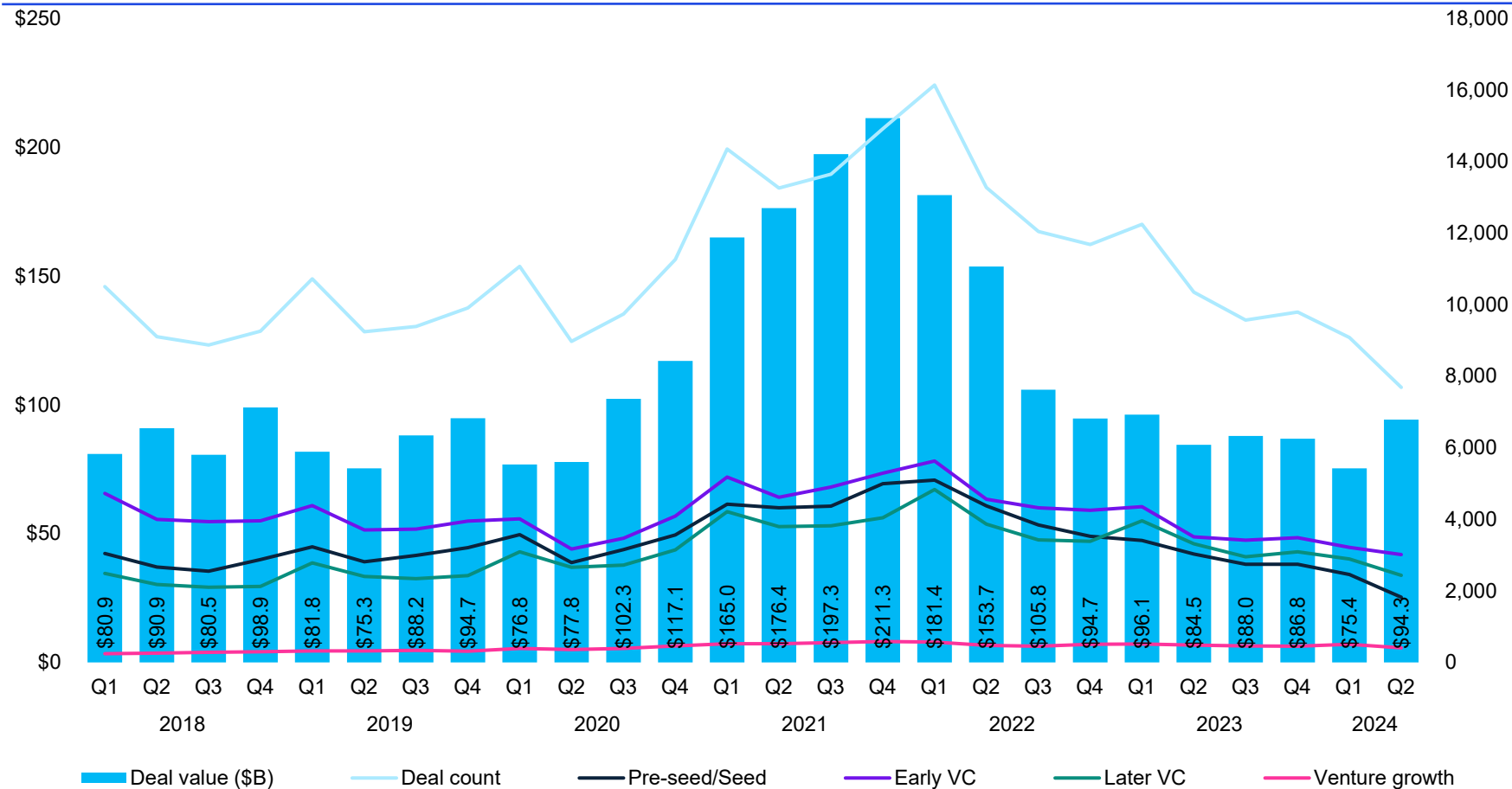
2024年第3四半期もベンチャーキャピタルによる投資は、世界的に比較的安定すると予想されますが、投資家が新たなビジネスチャンスを求めて資金提供の間口を開放する傾向が強まっているため、1億ドル超のメガディールがさらに増えると考えられます。世界的には、AIへのベンチャーキャピタルによる投資は続くと考えられますが、一部の投資家はこれまでの広く浅い投資をやめ、真にユニークなAI提供価値を持つスタートアップに投資を集中させる可能性があります。また、代替エネルギーやクリーンテックも投資家にとって優先順位の高い分野であることに変わりはないでしょう。将来の気候変動に関する公約を達成するために行動を起こす必要性がますます高まっていることを考えると、この傾向はほとんどの国・地域ですぐに変わることはないと考えられます。

スタートアップが米国大統領選挙前の潜在的なチャンスを活かそうとすることで、世界的にIPOが2024年第3四半期に活発化する可能性があります。しかし、IPO市場が大きく上向くのは2025年第1四半期か第2四半期になると予想されます。

グローバル—2024年第2四半期 (3/3)

Global venture financing

2018–Q2'24



Source: Venture Pulse, Q2'24, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of June 30, 2024. Data provided by PitchBook, July 17, 2024.



世界中で、特に1億ドルを超える大きな取引が行われています。AIが大きな要因になっている一方、ベンチャーキャピタルが数カ月前よりもIPOの見通しが良くなった既存の投資先、特に黒字化に成功したスタートアップにより多くの資金を投入しているのも事実です。つまり、現在見られる資金調達の一部は、2025年か2026年に行われるIPOに必要な資金を投資家が企業に提供しているということです。



Conor Moore
 Global Head, KPMG Private Enterprise, KPMG国際パートナー, KPMG米国

米国 – 2024年第2四半期 (1/2)

2024年第2四半期、米国におけるベンチャーキャピタルによる投資は556億ドルに増加し、2022年第2四半期以来の高水準になりました。主な要因は、クラウドAIプロバイダーのCoreWeaveによる86億ドルや、AIシステム企業xAIによる60億ドルなど、AI分野におけるメガディールによるものです。

AIは米国で非常に活況を呈している投資分野に

2024年第2四半期の米国におけるベンチャーキャピタルによる投資では、CoreWeave（86億ドル）とxAI（60億ドル）のほか、データに特化した企業Scale AIとAIを活用した創薬企業Xaira Therapeuticsがそれぞれ10億ドルを調達するなど、AI分野は当四半期最大の案件を含む大小さまざまな規模の資金調達が行われました。AI分野のバリュエーションが他の分野と比べて非常に高い水準で推移していることは、AI関連企業の企業価値の中央値がここ数四半期で大幅に上昇していることから明らかです。米国では、取り残されてしまうことを不安に感じるFOMO（Fear Of Missing Out）が当四半期のAI分野への投資の好調さの要因であると考えられます。

米国のIPO市場がさらなる動きをみせる

2024年に入って6ヶ月が経過した時点での米国におけるIPOイグジット額は284億ドルと、2023年の総額293億ドルをわずかに下回りました。2024年第1四半期に行われたソーシャルメディア・プラットフォームのRedditとAIクラウド企業のAstera Labsに続き、2024年第2四半期にはテクノロジーマーケティング企業のIbottaとサイバーセキュリティ企業のRubrikがIPOを実施し、Rubrikは7億5,200万ドル²、Ibottaは約5億7,700万ドルをそれぞれ調達しました³。RubrikとIbottaの2社がIPO後も好調な業績で推移していることもあり、2024年第3四半期に向けIPOへの関心がさらに高まる可能性があります。一方、特に米国大統領選挙が近づいていることもあり、現時点でIPOが大きく増える兆候はありません。投資家とスタートアップはともに株式の上場について楽観的になっていますが、IPOの大幅な増加は2025年以降になると予想されます。

米国におけるイグジット戦略としてのM&Aについても、すでに昨年の同時期の総額を大きく上回っていますが、過去の記録的な高水準時と比較すると相対的に低調でした。

2. <https://finance.yahoo.com/news/microsoft-backed-rubrik-exceeds-ipo-013220644.html>

3. <https://www.forbes.com/sites/antoniopequenoi/2024/04/17/ibotta-ipo-reportedly-raises-577-million-above-marketed-range/>

スタートアップの効率化への努力に報いるベンチャーキャピタル

この2年間、米国のベンチャーキャピタルは、ポートフォリオ内のスタートアップに対して、経費管理や損益管理、事業継続期間を延ばすためのあらゆるコスト削減策や効率化に向けたプレッシャーをかけてきました。そのようななか、資金が尽きてしまった企業や他社に買収された企業もあります。2024年第2四半期、ベンチャーキャピタルはこうした企業努力に報い始め、事業を合理化し、2025年または2026年のイグジットに向けて推進するため、激動の時代を生き抜く能力を証明した企業に多額の投資を行うようになっていきます。

2024年第3四半期に注目すべきトレンド

2024年第3四半期も米国におけるベンチャーキャピタルによる投資は前四半期比で比較的堅調に推移し、1億ドル超のメガディールは引き続き増加すると予想されます。米国のベンチャーキャピタルにとってAIは引き続き大きな投資分野であり、業界特有のAIソリューションへの関心が高まることが予想されます。米国ではエネルギーとクリーンテックへの注目が続いていることから、ベンチャーキャピタルはAIソリューションを支えるサーバーやインフラのエネルギー要件の削減を目的としたソリューションにもますます関心を示すと考えられます。

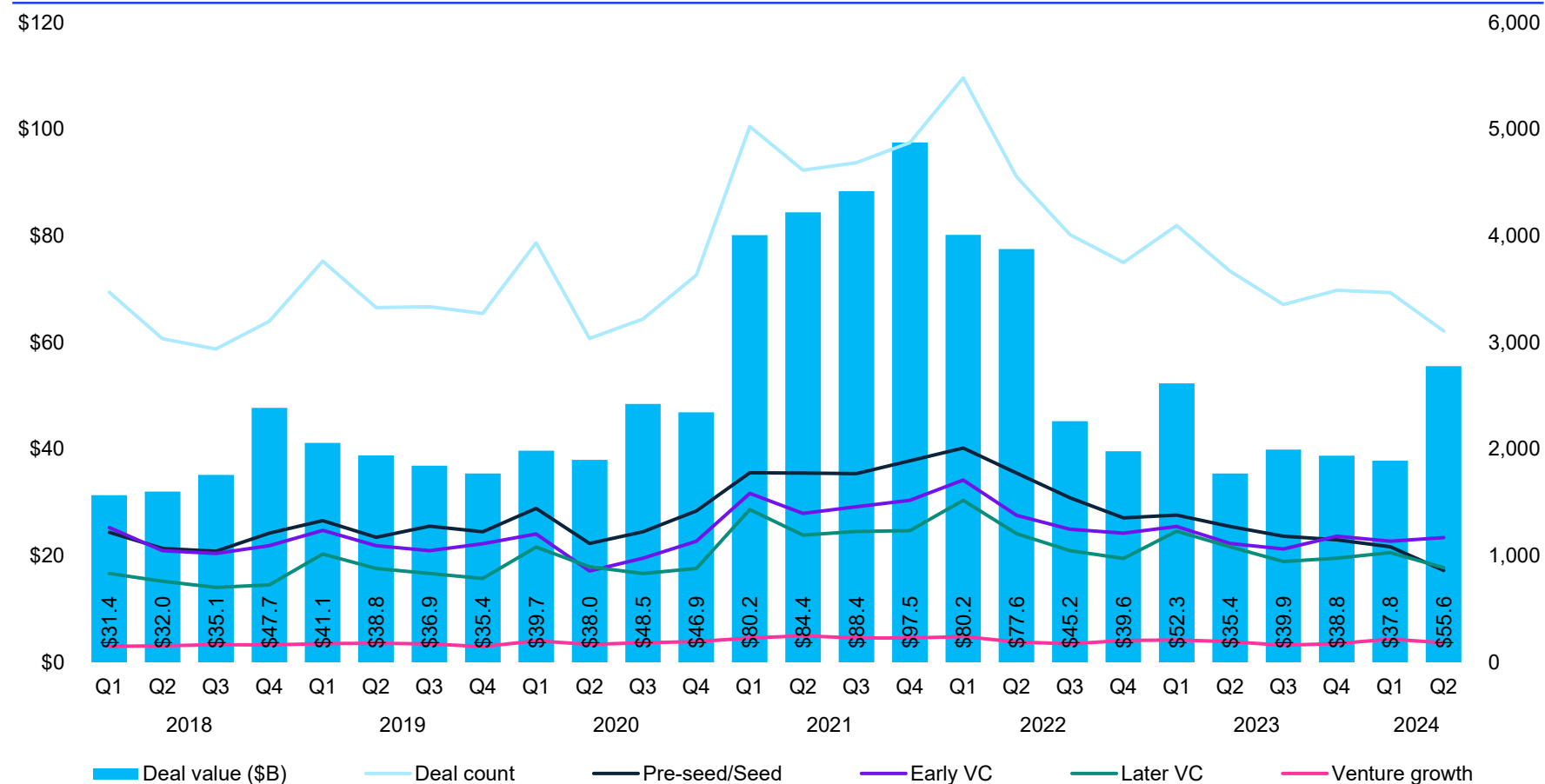
ベンチャーキャピタルによる資金調達活動は、AI分野に特化したファンドを除いて、今年後半にかけて低迷し続ける可能性が高い一方で、イグジットが増加すると、その後の四半期の資金調達活動が促進される可能性があります。

苦境にある企業が買い手を探し、コーポレートベンチャーキャピタルやプライベートエクイティ（PE）ファンドが案件を探すため、M&Aが2024年第3四半期に活発化することが考えられます。

米国 – 2024年第2四半期 (2/2)

Venture financing in the US

2018–Q2'24



Source: Venture Pulse, Q2'24, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of June 30, 2024. Data provided by PitchBook, July 17, 2024.



AIに関しては、大手ハイテク企業は市場の動きに素早く反応しています。彼らはこれまで多くの資金を投じていた事業の一部を取りやめ、その資金をすべてAIに再投入しています。なぜなら、他社に先駆けていち早く事業を立ち上げる必要があるからです。そのため、世界中で見られる取引は大規模になっています。迅速に行動するには資本が必要であり、必要なものを得るためにどこに多額の資金を投入するかについて大胆な決定を下さなければならないからです。



Francois Chadwick
Partner
KPMG米国

南北アメリカー2024年第2四半期（1/3）

2024年第2四半期の南北アメリカにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、583億ドルに達し、8四半期ぶりの高水準となりました。これは、米国での1億ドル規模のメガディールの復活が一因であり、CoreWeaveによる86億ドルをはじめ、xAI（60億ドル）、Juul（12億ドル）、Scale AI（10億ドル）、Wiz（10億ドル）、Xaira Therapeutics（10億ドル）という6つの10億ドル超案件を含みます。米国以外では、カナダ、ブラジル、メキシコが前四半期比で大幅増となったものの、過去の記録的な高水準と比較すると低調に推移しました。カナダでは、前四半期の7億8,300万ドルから13億ドルに増加し、ブラジルでも、3億5,280万ドルから8億1,680万ドルに増加しました。メキシコでは、前四半期の3,300万ドルから2億2,590万ドルへと大幅に増加しました。

エネルギーとクリーンテック分野が投資家の関心と牽引力を高め続ける

2024年第2四半期、クリーンテック企業が引き続き南北アメリカのベンチャーキャピタルの注目を集め、事業の立ち上げとコンセプト実証のための資金調達を行う企業が増加しました。米国では、レイターステージにおける資金調達が課題となっており、一部のクリーンテック企業は、製品を大量生産の段階まで拡大するために必要なレイターステージの資金調達に苦慮しています。

ブラジルでは、再生可能エネルギーやクリーンテック分野、特に脱炭素化や代替エネルギー発電などの分野への関心が投資家の間で緩やかながらも着実に高まっています。市況が改善すれば、ブラジルのエネルギー分野、特に水素エネルギー関連への投資が増加する可能性があります。

カナダへのベンチャーキャピタルによる投資は回復基調

2024年第2四半期、カナダにおけるベンチャーキャピタルによる投資は13億ドルに達したこともあり楽観的な見方もありますが、過去の記録的な高水準や前年同期の19億ドルと比べると比較的低下水準にとどまりました。ケベック州を拠点とする電気自動車用充電ステーション会社のFloが1億ドルを調達するなど、再生可能エネルギーは当四半期も引き続き投資家の高い関心を集めました⁴。

カナダ中央銀行は2024年第2四半期、2020年第1四半期以来となる政策金利を0.25%引き下げました。金利の引き下げは市場環境が改善しつつあることを示す好材料であり、今後の利下げは急速ではなく、極めて慎重な方法で行われる可能性が高いと考えられます。

ブラジルへのベンチャーキャピタルによる投資は2倍以上に増加

2024年第2四半期のブラジルにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、8億1,680万ドルに増加し、2022年第3四半期以来の高水準となりました。金融サービス・インフラ企業のQI Techによる2億5,000万ドルの資金調達が、当四半期の実績の改善に貢献するとともに、QI Techはこの資金調達により、評価額10億ドルを超えるフィンテック・ユニコーンの地位を獲得しました。1年以上にわたって続くブラジルのベンチャーキャピタル市場の低迷により、ブラジルを拠点とする数多くのスタートアップが生き残るために奮闘しています。たとえば、B2Cの分野では、将来のキャッシュフローを活用することで資金を集めている企業もあります。

AIイノベーションへのカナダ政府による強力な支援

2024年第2四半期、カナダ政府は国内におけるAIエコシステムの継続的な発展に対して大きな支援を示しました。4月には、技術インフラとコンピューティング能力へのアクセスを提供することを目的とした基金への20億ドルの拠出をはじめ、AI安全研究所の設立を支援するための資金提供、および提案されているAIに関する法案である「人工知能及びデータ法：Artificial Intelligence and Data Act (AIDA)」の施行を支援する「人工知能及びデータコミッショナー：AI and Data Commissioner」の設置など、AI関連資金への24億ドルの拠出を発表しました⁵。

また、カナダ連邦政府とケベック州政府が出資するイニシアチブであるScale AIも、さまざまな産業へのAIの導入に焦点を当てた22のプロジェクトに3,130万ドルの資金提供を4月に発表しました⁶。

4. <https://www.theglobeandmail.com/business/article-ev-charging-grid-flo-gets-136-million-boost-in-financing/>

5. <https://www.cbc.ca/news/politics/federal-government-ai-investment-1.7166234>

6. <https://betakit.com/canadas-ai-global-innovation-cluster-invests-31-3-million-across-22-projects/>

南北アメリカー2024年第2四半期 (2/3)

2024年第3四半期に注目すべきトレンド

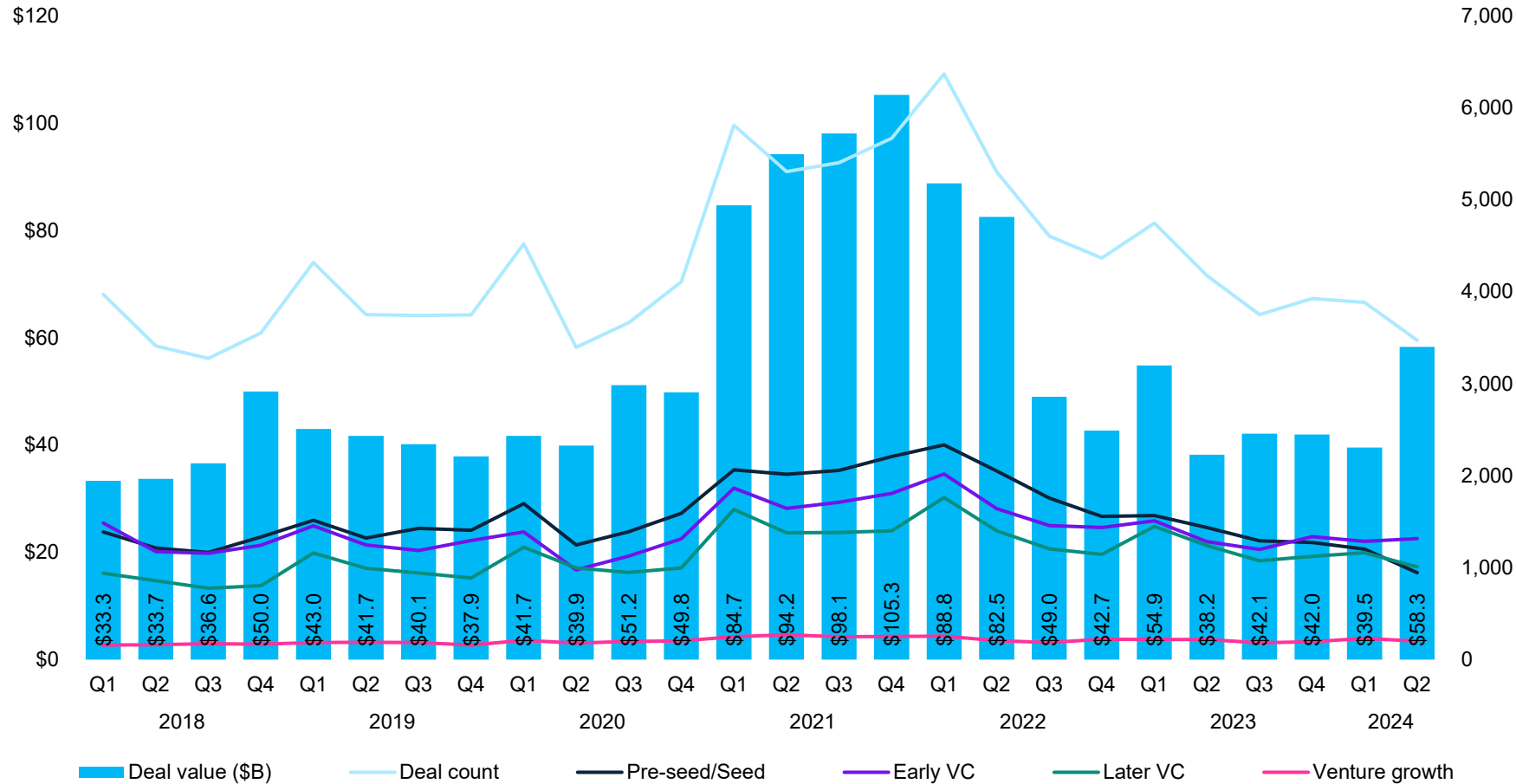
2024年第3四半期も南北アメリカのベンチャーキャピタルによる投資は、前四半期比で比較的同程度で推移すると考えられ、米国とカナダではAIとクリーンテック分野への投資が引き続き活発になると見込まれます。ブラジルとラテンアメリカでは、フィンテックが2024年第3四半期に向けてベンチャーキャピタルによる投資の最大の牽引役であり続けると考えられ、クリーンテックへの投資も徐々に回復していくと予想されます。

米国では、IPO市場に多くの注目が集まっています。米国大統領選挙が11月に予定されているため、IPO活動の増加は2024年第3四半期に顕在化し、選挙が終わるまでは再び沈静化する可能性があります。ブラジルでは、2024年第3四半期に向けて金利とインフレ率に注目が集まると予想され、わずかな低下でもベンチャーキャピタルは好意的に受け止める可能性が高いと考えられます。

南北アメリカー2024年第2四半期 (3/3)

Venture financing in the Americas

2018-Q2'24



Source: Venture Pulse, Q2'24, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of June 30, 2024. Data provided by PitchBook, July 17, 2024.



AIはカナダが得意とする分野であり、その成長を強く望んでいます。カナダ政府は当四半期に、24億ドルの資金提供を発表し、また小規模企業への支援や他のさまざまな産業へのAIの導入に取り組むなど、そのコミットメントを証明するために多くのことを推進しています。



Ryan Forster
Partner
KPMGカナダ

欧州 – 2024年第2四半期 (1/4)

2024年第2四半期の欧州におけるベンチャーキャピタルによる投資は、自動運转向けのAI企業Wayveによる10億ドルのほか、消費者金融プラットフォームAboundによる9億9,960万ドル、大規模言語モデル（LLM）に特化したMistral AIによる6億5,060万ドル⁷、ネット銀行のMonzoによる6億2,100万ドルなど、メガディールの堅調な増加に牽引され、前四半期の139億ドルから178億ドルに増加しました。

欧州のベンチャーキャピタルから注目を集めるAI

2024年第2四半期、AIは欧州で引き続き非常に注目される投資分野でした。英国のWayveとフランスのMistral AIに加え、ドイツのAI言語翻訳会社DeepLが3億ドル、フランスのAI自動化会社H Companyが2億2,000万ドルの資金を調達しました。欧州におけるAIへのベンチャーキャピタルによる投資は幅広く行われ、AIの中核技術の開発に注力する企業と、顧客体験や製品開発など、企業のビジネスモデルのさまざまな側面の改善を支援するAIの活用注力する企業の両方に投資が行われました。

代替エネルギーとクリーンテックに投資を続けるベンチャーキャピタル

欧州では、代替エネルギーとクリーンテクノロジー分野においても大規模な資金調達が行われました。英国を拠点とするエネルギー貯蔵企業Highview Power（3億8,190万ドル）、エストニアを拠点とする水素に特化したElcogen（1億6,800万ドル）、オランダの水素に特化したスタートアップTree Energy Solutions（1億5,200万ドル）などが含まれます。EUの企業サステナビリティ報告指令（CSRD）は、大企業に持続可能性の指標を報告することを義務付けるもので、その他にもこの地域では持続可能性に関する規制や気候変動への取組みが進んでいるため、持続可能性分野に特化した規制対応のテクノロジーであるレグテックも投資家の関心を集めています。

7. <https://techcrunch.com/2024/06/11/paris-based-ai-startup-mistral-ai-raises-640-million/>

8. <https://edition.cnn.com/2024/06/11/tech/raspberry-pi-ipo-london-stock-exchange/index.html>

9. <https://www.londonstockexchange.com/discover/news-and-insights/lse-partners-with-floww?accordionId=1-cf1b91cd-b652-4fb8-912d-f2e836f0f08ec>

10. <https://gateleyplc.com/insight/article/pisces-a-new-share-trading-platform-for-private-companies/>

欧州のIPO市場に高まる楽観論

欧州全体では、経済情勢が安定的に推移すればIPOの環境が2024年第3四半期に好転する可能性があるとの楽観的な見方が広がり、将来のIPOの可能性を検討し準備を始める企業が増えています。2024年第2四半期、ロンドン証券取引所では格安コンピューター会社のRaspberry Piが6月に実施したIPOにおいて2億1,100万ドルを調達し、さらにIPO完了後の取引においても同社の株は好調を維持しています⁸。

ロンドン証券取引所では、スタートアップのライフサイクルの早い段階を支援する取組みも行っており、最近ではフィンテック企業のFlowwと提携し、投資家とアーリーステージ企業とのつながりを創出しています⁹。また、未公開企業が一時的に株式を公開できるようにする「PISCES (Private Intermittent Securities and Capital Exchange System)」の導入に向けた協議も進めています¹⁰。

英国へのベンチャーキャピタルによる投資は前四半期比で2倍以上に

2024年第2四半期の英国におけるベンチャーキャピタルによる投資は、2018年第1四半期以来の低水準に落ち込んだ前四半期の29億ドルから69億ドルへと2倍以上増加しました。当四半期のメガディールには、Wayveによる10億ドルに加え、フィンテック分野においてAboundによる9億9,960万ドル、Monzoによる6億2,100万ドルの2件の大型案件が含まれます。英国のレイターステージの企業の多くが資金調達に苦しむなか、当四半期後半にメガディールが増えたことは前向きな兆候と捉えられます。また、プレシードとシードの案件についても、引き続き英国のベンチャーキャピタルの高い関心を集めており、案件の中央値も大幅に増加しました。これらの成長は、英国市場の回復に伴いアーリーステージ企業への投資意欲が高まっていることと、ベンチャーキャピタルによるポートフォリオのリスク軽減への動きが反映されていると考えられます。

欧州 – 2024年第2四半期 (2/4)

ドイツへのベンチャーキャピタルによる投資は前四半期比で堅調に推移

2024年第2四半期のドイツにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、22億ドルと前期比でほぼ横ばいで推移しました。これには、AIを活用したディープテック企業DeepLによる3億ドル、半導体チップメーカーBlack Semiconductorによる2億7,500万ドル、衛星打ち上げ企業Isar Aerospaceによる2億3,700万ドル、クレジットカード企業Pliantによる1億6,300万ドル、複合一貫輸送システム企業Cargo Beamerによる1億5,000万ドルなど、1億ドル超の案件が多数含まれています。B2Bに特化したESG関連企業は、当四半期も引き続きドイツで投資を集めました。また、多くのベンチャーキャピタルが業界の推進役となり得るフィンテック分野に関心を示しましたが、暗号資産については引き続き低下しました。食料品配達会社Gorillasが当四半期中にドイツと他のいくつかの国での事業を閉鎖する計画を発表したため、ラストワンマイル配送も打撃を受けました¹¹。

オーストリアではスタートアップの成長に伴い大型案件を誘致

2024年第2四半期のオーストリアにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、コンテンツ管理会社StoryBlokのシリーズCラウンドでの8,000万ドルやエネルギー・グリッド最適化会社enspiredによるシリーズBラウンドの2,550万ユーロなど¹²、複数の企業が多額の資金調達を行った結果、2022年第1四半期以来の高水準となる2億8,300万ドルに増加しました。AIを活用したソリューションを持つスタートアップへの関心は高く、特に国外の投資家から大きな関心を集めました。一方、AI以外の分野では、その多くが苦戦し、経営破綻するスタートアップも増えています。当四半期、比較的低い評価額や不良投資機会、豊富なドライパウダー（投資可能な手元資金）などにより、多くのPEファンドがオーストリアに関心を示しました。

11. <https://www.wiwo.de/unternehmen/dienstleister/lieferdienst-getir-bestaetigt-rueckzug-aus-deutschland/29769672.html>

12. <https://hub.enspired-trading.com/blog/enspired-secures-25.5-million-in-series-b-funding>

北欧地域は2020年第2四半期以来の水準に落ち込む

北欧地域におけるベンチャーキャピタルによる投資は、2024年第2四半期は低調に推移し、2020年第2四半期以来の低水準となる13億ドルに減少しましたが、アーリーステージの資金調達は引き続き好調でした。エネルギー、クリーンテック、ディープテック・ソリューション分野は、引き続きベンチャーキャピタルの主要関心分野でした。長期的な経済の低迷を受け、北欧地域の多くのグロースステージ企業が資金調達に苦戦を強いられる一方で、資金調達に向けて有利なポジションにある企業も数多くあります。経済がさらに安定すれば、2024年末から2025年にかけてIPOを目指す企業も出てくることが見込まれます。

アイルランドへのベンチャーキャピタルによる投資は増加

2024年第2四半期のアイルランドにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、バイオテック企業のSynOx Therapeutics（びまん型腱滑膜巨細胞腫の治療法に注力する創薬企業）による1億1,000万ドルの資金調達もあり、前四半期の1億5,000万ドルから2億3,900万ドルに増加しました。また、AIを活用してレストランの効率的な運営を支援するフィンテック企業Noryも当四半期に1,600万ドルを調達しました。アイルランドにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、2024年第2四半期もAI、バイオテクノロジー、フィンテックなどの分野に限られてはいるものの、再び大きな投資をしようとする意欲が見られます。

欧州 – 2024年第2四半期 (3/4)

2024年第3四半期に注目すべきトレンド

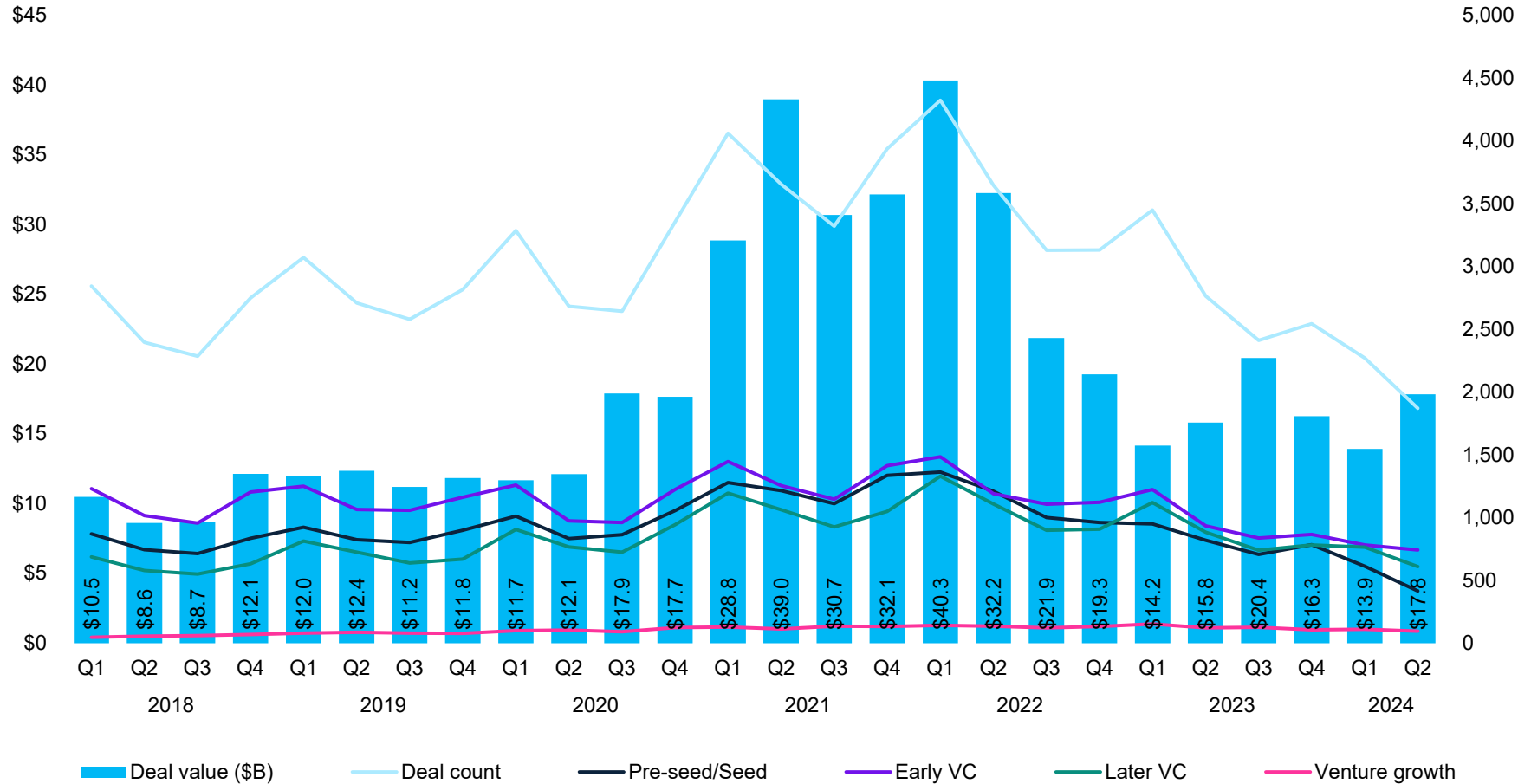
欧州では、2024年第3四半期に向けて投資意欲は高まっているものの、2024年7月に実施された英国総選挙や11月に予定されている米国大統領選挙など、多くの不確定要素により、ベンチャーキャピタルは慎重な姿勢を崩さないと考えられます。欧州ではエネルギーやクリーンテックに加え、AIも引き続き注目の投資分野となるでしょう。一方、こうした不確定要素にもかかわらず、欧州のIPO市場には、2024年第3四半期に向けて新たな動きが出てくるとの楽観的な見方もあります。

EU域内の金融機関は、2025年1月17日から適用されるデジタルオペレーショナルレジリエンス法（Digital Operational Resilience Act (DORA)）への準拠が義務付けられるなど、企業の法規制への対応を支援することにフォーカスしたレグテックへの関心が高まると考えられます。

欧州 – 2024年第2四半期 (4/4)

Venture financing in Europe

2018–Q2'24



Source: Venture Pulse, Q2'24, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of June 30, 2024. Data provided by PitchBook, July 17, 2024.



アイルランドと欧州地域の投資家の多くが自信を深めるなか、2024年に実施される米国と欧州での選挙がもたらす不確実性に加え、IPO市場の低迷や高い金利などにより、投資家は慎重な姿勢を崩しておらず、ベンチャーキャピタルによる投資が2021年や2022年の水準に戻る可能性は低いでしょう。そのようななか、バイオテクノロジー、海洋データテック、ヘルステック、AIの分野でアイルランドの革新的なソリューションへの投資と関心が高まっていることは、特に心強いことです。



Anna Scally
EMA region Head of Technology & Media, and Partner
KPMGアイルランド

アジア – 2024年第2四半期 (1/4)

2024年第2四半期のアジアにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、インドやシンガポール、日本などの国や地域では増加した一方、中国での減少が主な要因となり、2024年第1四半期の208億ドルから174億ドルに減少しました。

アジアではeコマースが引き続き大型案件を誘致

アジアは他の地域と異なり、eコマースや消費者向け企業が引き続き投資家の関心を集めています。2024年第2四半期、この分野ではシンガポールを拠点とするマーケットプレイス・プラットフォームのLazadaによる19億ドル、インドを拠点とするeコマース企業のFlipkartによる10億ドルの2件の大型案件がありました。

中国では半導体とAIに加え、新エネルギーが注目される

2024年第2四半期、中国では電気自動車メーカーNeta Autoによる6億9,300万ドルとCRRC Times Semiconductorによる5億9,900万ドルの資金調達に牽引され、新エネルギーと半導体の両分野でベンチャーキャピタルによる投資を誘引しました。他の分野と比較すると、これらの分野への投資は好調を維持しているものの、中国では電気自動車（EV）への参入企業の増加に伴い、ベンチャーキャピタルのEVへの関心は鈍化しています。EV関連企業については、今後数四半期に統合や合併が予想されます。

中国では、AI分野も2024年第2四半期においてベンチャーキャピタルにとって非常に魅力的であり、小売業に特化したZunyuan Supermarketが5億2,870万ドル、生成AI企業のZhipu AIが4億ドル、AIおよびIoTプラットフォーム企業のTerminus Technologiesが2億7,780万ドル、大型電動トラック開発企業のWindrose Technologyが1億1,000万ドルを調達しました。当四半期の中国におけるAI関連投資の多くは、これまでの大規模言語モデル（LLM）からロボティクスや業務効率化など、AIの実用化に集中しました。また、自律走行車関連のAIにもベンチャーキャピタルが強い関心を示しました。

アジアでは国や地域により異なるIPOの動きが見られる

2024年第2四半期、中国と中華人民共和国香港特別行政区（SAR）のIPO活動は静かな状態でしたが、すでに発行されている株式や債券などの取引を行う流通市場（セカンダリーマーケット）は活発でした。一方、インドのIPO市場は引き続き堅調で、インシュアテックのGo Digitが当四半期にIPOを成功させました。インドの資本市場は2024年第2四半期に史上最高値を記録し、公開市場での資金調達を目指すベンチャー企業の意欲を刺激しました。ZomatoやNykaaなど、すでに上場しているスタートアップも好調を維持しています。

日本のイグジットは他の国や地域と比べると規模が小さいものの、IPOは活発に行われました。バイオテクノロジー分野では多くのIPOが行われ、iPS細胞による心臓の再生医療の開発を目指すHeartseedも2024年第3四半期初めに東京証券取引所グロース市場でのIPOを予定しています。

インドの政治的安定はベンチャーキャピタルによる投資に明るい兆しを与える

2024年第2四半期のインドにおけるベンチャーキャピタルによる投資は、前四半期の29億ドルから40億ドルへと大幅に増加しました。当四半期、インドのベンチャーキャピタルは、フィンテック、電気自動車、消費者向けテクノロジーなど、より伝統的な分野への投資に重点を置きました。インドは、消費者向けテクノロジー分野への投資が激減した他の多くの国や地域と異なり、総人口および人口動態によりこの分野への投資が比較的堅調に維持されています。2024年第2四半期、eコマース・プラットフォームのFlipkartが10億ドル、オンライン食料品配達のZeptoが6億6,500万ドル、消費者金融のKreditBeeが2億900万ドルを調達しました。

アジア – 2024年第2四半期 (2/4)

マクロ経済環境が厳しさを増すなか、日本のベンチャーキャピタルによる投資は増加

2024年第2四半期の日本におけるベンチャーキャピタルによる投資は、実質個人消費の減少や賃金上昇がインフレに追いつかない状態が続いているほか、一部の自動車メーカーの品質スキャンダルを受けて自動車の出荷と販売が停止されたことによる不確実性などマクロ経済状況の悪化にもかかわらず、前四半期の8億4,200万ドルから12億ドルに増加しました¹³。2024年第2四半期、宇宙技術、核融合、バイオテクノロジー、AIなどのディープテック分野へのベンチャーキャピタルからの関心と投資が高まりました。当四半期、Pale BlueがシリーズBラウンドで960万ドル（15億円）を調達したほか¹⁴、京都フュージョニアリングはシリーズCラウンド（エクステンション）で990万ドル（15.6億円）を調達しました¹⁵。

日本のベンチャーキャピタル・エコシステムはここ数四半期で急速に成長しており、1件あたりの平均資金調達額は増加しています。しかし、グロースステージへの投資は依然として課題であり、規模を拡大しようとする日本のスタートアップの継続的な成長を妨げる可能性があります。

2024年第3四半期に注目すべきトレンド

2024年第3四半期に向けて、AIと代替エネルギー自動車ベンチャーキャピタルの目には引き続き魅力的に映ると予想されます。中国へのベンチャーキャピタルによる投資は、2024年第3四半期も比較的軟調に推移すると予想され、2024年第2四半期の低調な水準から持ち直す可能性はあるものの、2021年第1四半期の水準までは回復しないと考えられます。中国では、2025年にIPO市場が回復することを期待して、多くの中国企業がIPOの準備を進めると考えられます。

インドでは、安定した政治と良好な経済環境に牽引されて、ベンチャーキャピタルによる投資は2024年第3四半期も引き続き増加すると予想されます。日本では、グロースステージにおける資金調達に課題があるものの、ベンチャーキャピタル市場の活動は引き続き堅調であると予想されます。日本のスタートアップが成長に伴い海外へ進出し始めるにつれて、日本は海外からの投資を誘致する良い位置にいると考えられます。

13. <https://www.reuters.com/business/autos-transportation/toyota-other-japan-automakers-under-fire-vehicle-certification-issues-2024-06-03/>

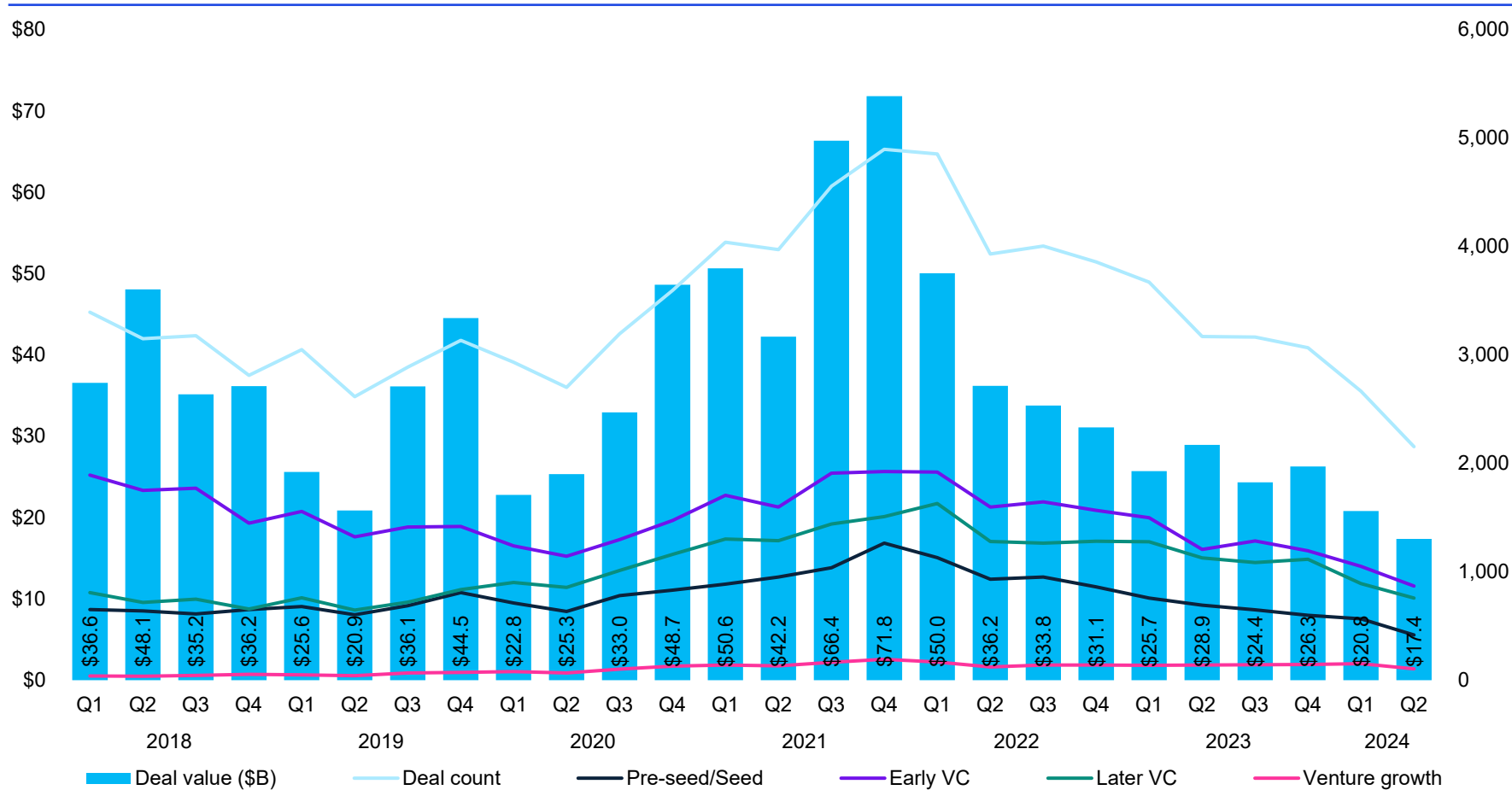
14. <https://news.satnews.com/2024/06/07/pale-blue-raises-million-in-series-b-funding/>

15. <https://kyotofusioneering.com/en/news/2024/04/11/2256>

アジア – 2024年第2四半期 (3/4)

Venture financing in Asia

2018–Q2'24



Source: Venture Pulse, Q2'24, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of June 30, 2024. Data provided by PitchBook, July 17, 2024.



AI分野では、特にAIを活用したアプリケーションへの投資家の関心が高く、2024年第2四半期も引き続き中国のベンチャーキャピタルによる投資を強力に誘致しました。AIに特化したスタートアップはここ数年成長し、投資を集めています。一方、AI関連スタートアップのなかでどの企業が成果を上げ、商業化に成功するのか、AIに投資するベンチャーキャピタルは慎重になっていることも事実です。

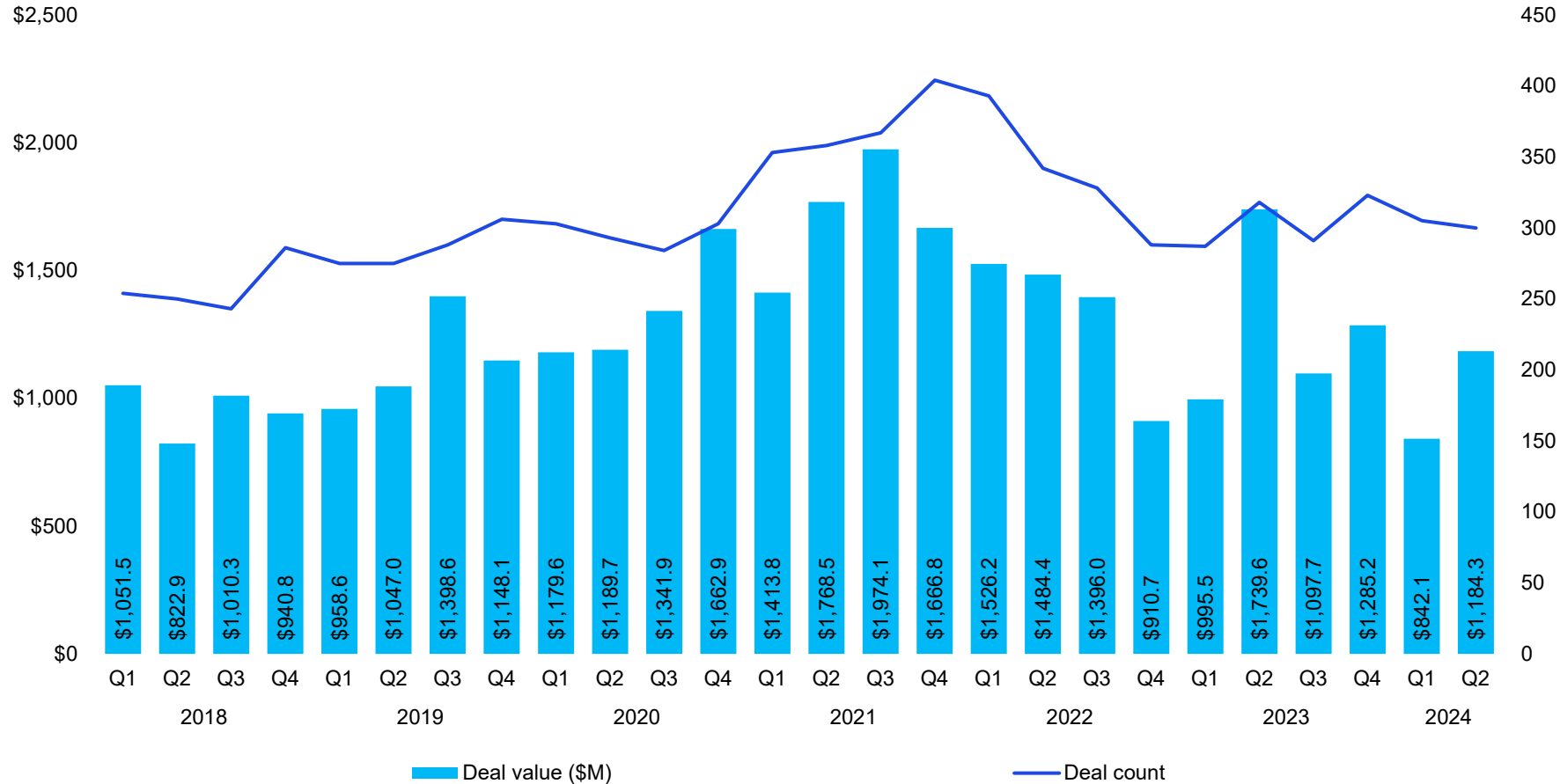


Zoe Shi
Partner
KPMG中国

日本 – 2024年第2四半期 (4/4)

Venture financing in Japan

2018–Q2'24



Source: Venture Pulse, Q2'24, Global Analysis of Venture Funding, KPMG Private Enterprise. *As of June 30, 2024. Data provided by PitchBook, July 17, 2024.



日本のベンチャーキャピタルとコーポレートベンチャーキャピタルは大量のドライパウダーを保有しており、特に2020年と2021年に調達した資金の使用期限が近づくにつれて、イグジットの可能性が高いレイターステージの取引を検討することが考えられます。特にシリーズCラウンドでは質の高い投資が増えています。



阿部 博
 常務執行理事
 スタートアップ統轄パートナー
 有限責任 あずさ監査法人

本レポートについて

メソドロジー（方法論）

KPMGのプライベートエンタープライズセクターが四半期ごとに発行する「Venture Pulseレポート」は、米国のPitchBookのデータを使用しています。

本レポートでは、中東・南アジア（MESA）地域およびアフリカ地域については分析の基となるデータセットと検証可能な傾向などが不足していることから地域ごとの集計に分類されていません。一方、グローバルの数値にはMESAやアフリカ地域に加え他の地域も含まれるため、本レポートの南北アメリカ、アジア、欧州の各地域の数値を合計してもグローバルの合計とは一致しません。

本レポートでは、特に欧州地域においてPitchBookがプライベートエクイティ（PE）としてトラッキングしているトランザクションについて、レイターステージのベンチャーキャピタル（VC）との混同や特定の資金調達ラウンドに関して混乱が生じる可能性があることから、これらのトランザクションは含んでいません。PitchBookでは、PEグロス投資ラウンドをPE投資家が非公開企業の少数株を取得したときに発生する金融投資と定義しており、投資家がPitchBookによりPE投資家と分類され、かつ出資を受ける企業の唯一の資金調達先である場合はPEグロス投資として分類され、本レポートのデータセットには含まれません。ただし、2022年第4四半期版のVenture Pulseレポートより、レイターステージのVCのグロスを説明するためにPitchBookにより考案されたベンチャーの新しいステージが含まれ、ベンチャーグロスとして定義しています。

また、企業が製造業とインフラを除くPitchBookが定める業種のいずれかにタグ付けされている場合は、その企業は保持されます。それ以外の場合、次の業界はグロスエクイティファイナンスの計算から除外されます：建物と不動産、貯蓄と住宅ローン、不動産投資信託、石油とガスの設備、公共事業、探査、生産、精製。なお、対象となる企業は、対象となるラウンドの前にM&Aや買収、新規公開株（IPO）を完了してはなりません。

資金調達

PitchBookでは、VCファンドをスタートアップ企業の株式への投資を目的として調達された資金のプールと定義しています。PitchBookでは、同様に従来のVCによって調達された資金に加え、スタートアップ企業の株式への投資を主な目的としてあらゆる機関によって調達された資金も含んでいます。グロスステージのピークルとして識別されるファンドはPEファンドとして分類され、本レポートには含まれていません。ファンドの所在地は、ファンドの投資チームが拠点を置く国によって決定されます。その情報が明確ではない場合には、ファンドのジェネラルパートナーの本社所在地が使用されます。資金調達の数字には、最終クローズを行った米国を拠点とするファンドのみが含まれます。ファンドの金額は、ファンドの最終クローズの年にカウントします。中間クローズの金額は、中間クローズの年にカウントされません。

取引

PitchBookでは、外部からのスタートアップ企業への株式投資が含まれます。投資は、必ずしも機関投資家からである必要はなく、個人のエンジェル投資家、エンジェルグループ、シードファンド、ベンチャーキャピタル企業、コーポレートベンチャー企業、企業投資家、機関投資家などからの投資が含まれます。なお、アクセラレータプログラムの一環として受けた投資は含まれませんが、アクセラレータが引き続き後続ラウンドに投資する場合は、それらの追加資金調達は含まれます。すべての資金調達は米国に本社を置き、かつ合同統計地域（CSA）のエコシステムを形成する企業です。PitchBookでは、部分的な負債と株式を含む取引を含んでいます。

- プレシード/シード:** プレシードステージには、少なくとも1つの機関投資家から最初の小切手を受け取り、開発の成長を促進する新興スタートアップが含まれます。グローバルスタートアップの場合、機関投資家の以前の取引参加に応じてエンジェルディールを再分類しています。会社の投資家ベースが個人投資家のみで構成されているために「エンジェル」としてタグ付けされた取引は、ステージ方法論に基づいて、アーリーステージまたはレイターステージのVC取引カテゴリーに再分類されます。2023年第4四半期のVenture Pulseレポート以降、米国と欧州に本社を置くスタートアップの場合、プレシードは設立から2年未満、かつ機関投資家からの支援を受けていないスタートアップの資金調達ラウンドと定義しています。
- アーリーステージ:** アーリーステージラウンドは、一般に資金調達で発行された株式のシリーズがシリーズAまたはB（通常はアーリーステージとしてまとめて）に分類されている、または、その情報が入手できない場合には会社の設立年数、資金調達履歴、会社のステータス、出資者などの要因によって分類しています。
- レイターステージ:** レイターステージラウンドは、一般に資金調達で発行された株式のシリーズがシリーズCまたはD以降（通常はレイターステージとしてまとめて）に分類されている、または、その情報が入手できない場合には会社の設立年数、資金調達履歴、会社のステータス、出資者などの要因によって分類しています。
- グロス:** シリーズE以降としてタグ付けされた資金調達、または設立から7年以上経過し少なくとも6回のVCラウンドを調達したスタートアップが関与する取引を、2023年1月に刊行された2022年第4四半期版Venture Pulseレポートよりこのカテゴリーに含みます。
- コーポレート:** 現在VCの支援を受けているスタートアップ企業で、PitchBookの他のベンチャーファイナンスの基準を満たす企業による資金調達ラウンドを、2018年3月よりVenture Pulseレポートに含んでいます。
- コーポレートベンチャーキャピタル:** コーポレートベンチャーキャピタル（CVC）として分類される資金調達には、既存のCVC部門を通じて投資する企業と、バランスシート外の株式投資を行う企業、またはその他の非CVC手法が採用されているラウンドが含まれます。

イグジット

PitchBookでは、株式の公開（IPO）や他のエンティティによる株式の過半数取得（企業または金融買収）など、VCの支援を受けて企業の株式保有者にとって最初の過半数流動性イベントが含まれています。一方、二次売却、最初の流動性イベント後のさらなる売却、または破産は含まれません。M&Aの価値は、報告または開示された数値に基づいており、実際の取引規模が不明な取引の価値を評価するために推定値は使用していません。IPOの価値は、IPO価格での企業のプレマナー評価に基づいています。方法論において、VCの支援を受けた企業の公開市場への移行を追跡するさまざまな方法に対応するために、カテゴリーを「IPO」から「公開市場」に変更しています。公開する企業の全体像を把握するために、方法論の変更により更新されたグループには、IPO、直接上場、および特別買収目的会社（SPAC）による逆合併が含まれます。

2019年第1四半期以降のVenture Pulseレポートでは、PitchBookのイグジット総額に関する方法論を、IPOの規模をイグジット総額として利用するのではなく、発行済み普通株式に戻づくIPOの事前評価の利用に変更されました。この変更により、イグジット総額が大幅に変更されましたが、業界が公開市場を通じたイグジットの実際の規模をどのように見ているかが反映されるようになっていきます。また、2021年第1四半期以降のVenture Pulseレポートでは、IPOイグジットタイプが更新され、SPACやその他の逆合併を含むすべてのタイプの上場が含まれます。



大谷 誠
プライベートエンタープライズセクター
統轄パートナー
KPMGコンサルティング株式会社
パートナー
makoto.otani@jp.kpmg.com

阿部 博
プライベートエンタープライズセクター
スタートアップ統轄リーダー
有限責任 あずさ監査法人
パートナー
hiroshi.abe@jp.kpmg.com

古口 長一郎
有限責任 あずさ監査法人
マネジャー
choichiro.koguchi@jp.kpmg.com

KPMGジャパン セクター統轄室
Sector-Japan@jp.kpmg.com

プライベートエンタープライズセクター
kpmg.com/jp/private_enterprise

英語オリジナル

[Venture Pulse Q2 2024 : Global analysis of venture funding](#)



本冊子は、KPMGインターナショナルが2024年7月に発行した「Venture Pulse Q2 2024: Global analysis of venture funding」を、KPMGインターナショナルの許可を得て抄訳したものです。翻訳と英語原文間に齟齬がある場合は、当該英語原文が優先するものとします。

ここに記載されている情報はあくまで一般的なものであり、特定の個人や組織が置かれている状況に対応するものではありません。私たちは、的確な情報をタイムリーに提供するよう努めておりますが、情報を受け取られた時点及びそれ以降においての正確さは保証の限りではありません。何らかの行動を取られる場合は、ここにある情報のみを根拠とせず、プロフェッショナルが特定の状況を綿密に調査した上で提案する適切なアドバイスをもとにご判断ください。

© 2024 Copyright owned by one or more of the KPMG International entities. KPMG International entities provide no services to clients. All rights reserved.

KPMGは、グローバル組織、またはKPMG International Limited (「KPMGインターナショナル」) の1つ以上のメンバーファームを指し、それぞれが別個の法人です。KPMG International Limitedは英国の保証有限責任会社 (private English company limited by guarantee) です。KPMG International Limitedおよびその関連事業体は、クライアントに対していかなるサービスも提供していません。KPMGの組織体制の詳細については、<https://kpmg.com/xx/en/home/misc/governance.html>をご覧ください。

© 2024 KPMG AZSA LLC, a limited liability audit corporation incorporated under the Japanese Certified Public Accountants Law and a member firm of the KPMG global organization of independent member firms affiliated with KPMG International Limited, a private English company limited by guarantee. All rights reserved. 24-1048

The KPMG name and logo are trademarks used under license by the independent member firms of the KPMG global organization.